



図書館だより

丸山アヤ子図書館長より

～学生のみなさんへ～



ご入学・進級おめでとうございます。図書館長の丸山アヤ子です。

新学期が「新型コロナウイルス感染症」のため、6月の遅いスタートとなりました。休業期間中、今まで手に取ったことのない本に出会い、「読書三昧」の日々を送られた学生も多かったようです。

本学の図書館は、学生や教職員のための教育保育研究の場であり、蔵書数は5万冊以上、視聴覚教材も多くあり、新聞が9紙あり、日々更新しています。

保育者になるための専門書はもちろん、実習に困らないように絵本も充実しております。一般教養関連の本(文学・科学誌)、女性誌、旅の雑誌等も、幅広く揃っています。

図書館は「知的財産」の一つといわれています。図書館を大いに利用し、仲良くなり、「自分の目で見、自分の頭で考える思考力」を養い、幅広い教養と豊かな人間性を身につけたプロの保育者になって下さい。

図書館長

丸山アヤ子



第10号発行
2020年6月24日

図書館の窓から見える紫陽花が美しく、季節になりました。雨の日はお家で読書もいですがね、すてきな小説や写真集などお気に入りの一冊を探しに図書館に足を運んでください。

実習でも大活躍!

～図書館活用のススメ～



2年生は、6月に授業を開始できたと思つたら、あつという間に保育所実習が始まりますね!連日図書館では実習に使う絵本や紙芝居を選んでいる2年生に会います。

各授業で、おすすめの絵本が紹介されたり、学生同士での読み聞かせやストーリーテリングの実践が行われたりと、様々な情報提供が行われていることでしょう。それでも、実際に借りる時になると迷ってしまう、という話をよく聞きます。

様々な学びをもとに、最終的には自らを選びます。手に取って、中身を見て声に出してみ、このお話を、ぜひ実習先の子どもたちと楽しみたいと思つた本や紙芝居を借りていくとよいでしょう。

図書館にはその他に、「運動遊び」や「制作」を紹介した本、実習日誌の書き方をまとめている本など、様々なお役立ち書籍があります。わらべ歌遊びや、ペープサートの情報に特化した本なども季節のアイテムは保育月刊誌も参考になりますよ!ぜひ図書館を活用してみてくださいね!

(細田香織)

金子 智昭 先生 おススメの本

『ことばが劈(ひら)かれるとき』



私が小学校の講師をしていた時、トゥレット症候群という障がいを抱えた4年生の男の子に出会いました。彼は自分の意思に反して突然大きな声で叫んでしまう症状に苦しんでいましたが、私が初めてクラスで挨拶をした後、彼は私に歩み寄り、「先生、自分は授業中に大きな声を出しちゃうから、先生のこと驚かせてしまいます。でも、気にしないで授業を進めてください。」と氣遣ってくれました。また自ら志願して放送委員会に入り、昼休みの集会や放送では、自分の言葉を紡ぎ出すように懸命に語っていました。言葉の障がいを受け入れて闘う彼の姿に胸を打たれました。

保育・教育現場では、このように先天性の難聴、きこおん 吃音や場面緘黙などの発達上の問題、突発的なストレスなどが引き金となり、言葉を思うように発せられず、苦しんでいる子どもがいます。

今回紹介するのは、竹内敏晴氏の著書『ことばが劈(ひら)かれるとき』です。竹内氏は舞台劇の演出家であり、本書では「からだほぐし運動」などのレッスンを通じて、子どもの閉じた言葉を劈(ひら)いていく過程が記されています。子ども時代の言葉の大切さ、言葉と身体の深い関係、子どもの成長を支える大人の役割など、あらゆることを心に問いかけてくる良書です。



6月



【図書館だよりブックリスト】

毎号、みなさんの「今」に寄り添う本をご紹介します。ぜひ図書館に来て手に取ってみてくださいね。わからないこと、知りたいことがあるときには、図書館スタッフに遠慮なく声を掛けてください。ご来館をお待ちしています！



2年生の皆さんはまもなく保育所実習が始まりますね。図書館ではたくさんの絵本や紙芝居を用意しています。でも・・・たくさんありすぎて選ぶのに迷ってしまう人！こんな心強い味方がありますよ！図書館スタッフいちおしの「絵本案内の本」をご紹介します♪

「新版 保育と絵本」

瀧 薫 著

ロングセラー絵本のよさを知ろう！

実習前に、年齢にあった絵本選びに悩むことも多いと思います。

この本は、子どものころによりそって絵本を選ぶことの大切さとその視点について丁寧に教えてくれます。

じっくり読んでいくと、こどもの発達の道筋とそのときに必要な絵本がとても良くわかり、自信をもって絵本を選べるようになると思います。

また、長年読み継がれてきたロングセラー絵本のブックガイドとしても、年齢別に大変わかりやすくまとめられています。じっくり読む時間がないという人も、ぱらぱらとページをめくってみると、たくさんのヒントが得られる専門書です。巻末に付いている表「発達の道すじと絵本の例」も参考になりますよ。



「保育のなかの絵本」

正置 友子 著

保育に携わる人へ 応援メッセージ！

「絵本は読んでもらった子どもたちの『たからもの』になるばかりではありません。子どもたちとともに深く出会った絵本は、その絵本を声に出して読んで保育者にとっても、一生の『たからもの』になります。」
(はじめに-保育のなかに、「絵本というたからもの」を！より抜粋)

保育の現場で子どもたちと向き合う先生たちにどんなふうに絵本を選び、読んであげるべきかを心を込めて伝えてくれる本です。

「読んでいるときに走り回ったりする子どもにどのように対処したらいいですか」「登場人物になりきってよんでもいいですか」などの質問にも答えてくれます。巻末に年齢別「子どもたちに読みたい絵本リスト」が付いています。



「よくわかる！絵本の選び方・読み方 0～5歳子どもを育てる『読み聞かせ』実践ガイド」

児玉 ひろ美 著

読み聞かせの実践のガイドブックです。読み聞かせの基本、読み聞かせ前後の手遊び、年齢別読み聞かせのプログラム例と実践例がポイントを押さえ、わかりやすくまとめられており、すぐに実習で役立てられそうです。

異年齢グループへの読み聞かせについても書かれていて参考になります。

豊富なイラストとともに、テーマごとの絵本もフルカラーで紹介。眺めているだけでも楽しい・・・いえいえ、とっても読みやすいのでぜひ読んでくださいね！

巻末の「読み聞かせあるあるQ&A」も保育者ならではの現場での悩みを解決するヒントがたっぷり！

巻末の「お役立ちシート集」「お話の記録」や「読み聞かせチェックシート」を活用して、自分だけの読み聞かせ記録集を作るのもおすすめです。

即戦力まちがいない！読み聞かせが得意になるかも♪



「絵本から広がる遊びの世界 読みあう絵本」

読みあう活動研究会 著

この本では、保育の現場で行われている「読み聞かせ」を子どもと保育者、または子ども同士が、絵本の世界を楽しみあい、新たな感情や行動が生み出されていく「読みあう」「読みあい」活動と捉えています。

「読みあう」活動によって、1冊の絵本を読み終えたあと、子どもたちの豊かな遊びや表現が育まれていく様子が生き生きと紹介されています。

「からすのパンやさん」や「めつきらもつきらどおんどん」など、絵本の世界に入り込み夢中になって遊ぶ子どもたちの姿をのぞいてみてください。

「絵本の年間計画表 年齢別 0,1, 2,3, 4,5歳」(実践例付)も参考になります。

子どもと絵本をつなげる 保育者の役割とは？

